

## 薬 剤 科

### 【平成30年度総括】

薬剤科内主な動きは、4月に薬剤科長 佐藤 伸隆 先生(外科医師)就任されました。化学療法件数増加、薬学生の実務実習受け入れ(崇城大学 1名)、出前講座(お薬の基礎知識)、薬剤師公開研修会開催(年 2回開催)、山鹿市介護認定審査会参加、薬一薬連携(山鹿地区勉強会・公開薬剤師研修会開催等)、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定(7名)、日本医療学薬学会参加、日本乳癌学会学術総会参加、日本臨床腫瘍学会参加、日本癌治療会学術集会、日本緩和医療薬学会参加、日本腎臓病薬物療法学会、院内クリティカルパス研究発表、がん専門薬剤師集中教育講座参加、認定実務実習指導薬剤師更新、認定実務実習指導薬剤師育成講習会、血糖値改善セミナー講演、災害支援薬剤師育成研修会参加、院内クリティカルパス研究発表、肝炎サロンの講師、院内感染対策講習会参加、がん専門薬剤師集中教育講座参加、高カロリー輸液調整開始、医薬品採用薬の検討・整理・ジェネリック医薬品変更、等 多くの業務を充実し学会・研修会等も参加・発表幅広く活動を行いました。

### ※平成 30 年度薬剤科実績 (月平均)

	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比
IVH 調製件数 (件)	16	5	11 件減
薬剤管理指導算定件数 (件)	487	413	74 件減
入院処方せん枚数 (内服外用)	2,563	2,567	4 枚増
入院処方せん枚数 (注射) (枚)	4,453	4,052	401 枚減
抗がん剤調製数 (名)	70	60	10 名減
抗がん剤調製件数 (件)	124	128	4 件増
薬剤鑑別報告件数 (件)	275	279	4 件増
DI・疑義照会件数 (件)	10	10	58 件増

### 【スタッフ】

薬 剤 科 長 佐藤 伸隆：(外科医師)

副薬剤科長 金森 浩明：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師、山鹿地区薬剤師会副会長、熊本県病院薬剤師会理事、熊本県薬剤師会災害支援薬剤師

主任薬剤師 松田 光司：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師

柴田 佳代：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師、ピンクリボンアドバイザー認定、日病薬病院薬学認定薬剤師

主任薬剤師 松尾 貴史：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、  
日本糖尿病療養指導士

薬剤師 浦田 詩乃：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、  
熊本県肝疾患コーディネーター、熊本県薬剤師会災害支援薬剤師

生田 佳嵩：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、  
熊本県肝疾患コーディネーター

森 まりえ：日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師

薬剤助手（半日勤務） 1名

### 【今後の課題・展望】

次年度は、採用薬・後発医薬品変更検討、化学療法対応検討、薬剤師公開研修会開催、薬一薬連携・病一薬連携強化、出前講座開催、薬学生の実務実習受け入れ、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定 等、薬剤師増員の検討 今後多くの業務、医薬品等見直し検討していきたいと思えます。

## 臨床検査科

### 【平成30年度総括】

平成 30 年度は、日本臨床検査技師会および日本臨床検査標準協議会が認証する「精度保証施設」として継続できた年度でした。

また、「医療法等の一部を改正する法律」が平成 30 年 12 月に施行され、当検査科でも重点課題と位置づけ、精度管理および機器・試薬管理等の更なる改善を行いました。

毎年実施されている日本臨床検査技師会の精度管理調査をはじめとして多数の精度管理調査にも参加し、良好な成績を修めました。

### 【主な業務実績】

	生化	CBC	検尿	超音波	細菌培養
年間検査数	30,793	20,054	13,608	1,728	2,718

### 【スタッフ】

臨床検査科長：木下 浩一(外科医)

副臨床検査技師長：渡邊 正剛(熊本県臨床検査技師会 県北地区理事)  
野中 裕直

主任臨床検査技師：川添 美恵子

坂梨 由佳(日本糖尿病療養指導士)

臨床検査技師：中小田 礼(超音波認定検査士:体表臓器、消化器、泌尿器)

伊藤 佐由美(超音波認定検査士:循環器)

緒方 かおり

城 沙知(超音波認定検査士:消化器)

原口 翔平

### 【今後の課題・展望】

チーム医療の一員として地域住民の生命と健康へ貢献することを目的とし、以下の項目を充実させることを課題とします。

- ① 検査技師としての役割と責任を自覚した業務への対応
- ② 各研修会への積極的な参加による知識と技術の習得および共有化
- ③ 他職種との連携

## 放射線科

## 【平成 30 年度総括】

- ① 常勤放射線科医の赴任により、CT・MRI 検査のクオリティがあがりました。
- ② 検診骨密度検査の普及により二次検査が増えました。

## 【実績】

検査項目	件数
一般撮影	18,928 件
透視造影	521 件
内視鏡透視	338 件
CT 検査	5,848 件
MRI 検査	2,106 件
血管造影	70 件
画像ファイリング	2,948 件
骨密度	398 件
ポータブル	1,666 件
オペ室	230 件
マンモグラフィー	820 件
計	33,873 件

## 【スタッフ】

放射線科長：幸 秀明  
 副診療放射線技師長：山崎 俊直  
 主任診療放射線技師：田中 卓哉  
 診療放射線技師：福永 拓也  
                             吉田 健一郎  
                             江藤 美佳  
 放射線事務：多久 美由紀

## 【今後の課題・展望】

- ・長期計画に基づき、更新時期の機器を効率よく更新する。
- ・放射線の安全管理を行う。
- ・共同利用 MRI のさらなる増加をめざす
- ・VINCENTの取り扱いを熟知する

## 臨床工学科 (ME 室)

### 【平成 30 年度総括】

ME室は平成 19 年に設置され、平成 22 年度には、新病棟へ移設し、ME機器の保守・点検や医療機器の中央管理に取り組んでいる。臨床技術提供としては、CHDF、DHPに代表される急性血液浄化療法や難治性腹水症に対する腹水ろ過濃縮再静注法を行っている。また、臨床工学技士の増員で、肝動脈化学塞栓療法(TACE)への業務を拡大し、検査、治療中の患者の監視や医療器材の適正使用や管理を行なっている。

さらに、手術室に臨床工学技士が1名常勤し超音波凝固装置や超音波画像診断装置、ラジオ波焼灼装置のセッティングや操作、内視鏡外科手術のスコーピスト、整形外科手術(人工膝、股関節置換術)の介助業務を行ないながら、麻酔器、電気メスなどの医療機器の保守点検業務を行ない安全使用の向上に努めている。

### 【スタッフ】

主任臨床工学技士：西口 博憲(臨床工学技士、呼吸療法認定士)

臨床工学技士：今村 雄太郎(臨床工学技士、第2種ME技術認定士)

### 【中央管理および、保守点検・操作している主な医療機器】

個人用血液浄化装置・・・東レ TR-55X

人工呼吸器・・・ザビーナ／ベラ／BENNETT 840／V60

輸液ポンプ・・・OT - 701／707／808

シリンジ、PCAポンプ・・・TE - 331S／332S／TOP-5530、TE - 361

除細動器・・・TEC-5531／5521／7631／AED

低圧持続吸引器・・・SD - 2000／2001／2002／MD-8000P

経腸栄養ポンプ・・・APPLIX

麻酔器・・・PRO-55s／KMA-1300Ⅲ／KMA-1300Vi／Carestation 650

電気メス、超音波凝固切開装置・・・VIO3／ForceTriad／Force FX、SonoSurg／GEN11

超音波画像診断装置・・・I-lab／Aplio 300

ラジオ波焼灼装置・・・VIVARF

内視鏡手術装置・・・Electronic Endoflator／Image／Xenon300

### 【今後の課題・展望】

保守・点検業務として、内視鏡室に設置している電気メスや内視鏡装置の日常的な点検や、病棟での生態情報監視装置などの更新など、医療機器の安全使用の向上に努めていきたい。

## リハビリテーション科

### 【平成 30 年度総括】

急性期から回復期の入院患者さまを対象としてリハビリテーションを行って参りました。術後や発症後の早期から関わることで、患者さまの早期の家庭復帰・社会復帰を目指しております。そのため疾患別リハビリテーションの充実を図ってきました。また、対外的には出前講座の依頼を受けることで地域住民の方々の健康づくりに寄与してきました。更にリハビリテーション養成校からの学生を受け入れることで、後進の育成にも貢献しております。

実績に関しては下記に示すとおりです。

		平成 29 年度	平成 29 年度	前年度比(%)
入院	疾患別	17,403 人	18,399 人	94.6
		39,614 単位	40,775 単位	97.2
	手 技	4,522 人	3,678 人	122.9
	器 具	0 人	85 人	
外来	疾患別	0 人	0 人	
		0 単位	0 単位	
	手 技	80 人	7 人	1142.9
	器 具	1 人	0 人	

(包括病棟を含む)

### 【スタッフ】

リハビリテーション科長：横田 秀峰(整形外科医)

理学療法士長：四方田 清晴

副理学療法士長：上野 高弘

理学療法士：増岡 正治

渡邊 龍一

福島 崇晃

副作業療法士長：牛島 由紀雄

主任作業療法士：脇山 美紀

作業療法士：松林 佑

平尾 隆昌

助 手：原口 美子

### 【今後の課題・展望】

- ① 2019 年 4 月よりがんリハ研修を履修した Dr が不在となるため、がんリハの施設基準を満たさなくなる。よって 2019 年度中に施設基準の再取得に努める。
- ② 当センターの地域貢献活動として出前講座の受け入れを継続。
- ③ 実習生の受け入れを継続

## 栄養管理室

### 【平成 30 年度総括】

今年度より管理栄養士が増員となり、病棟担当制が可能となりました。昼食時のミールラウンドを通し、食事摂取に関わる問題点の抽出、より早期の食事介入に努めました。栄養指導においては、糖尿病における外来での継続指導が増加しました。

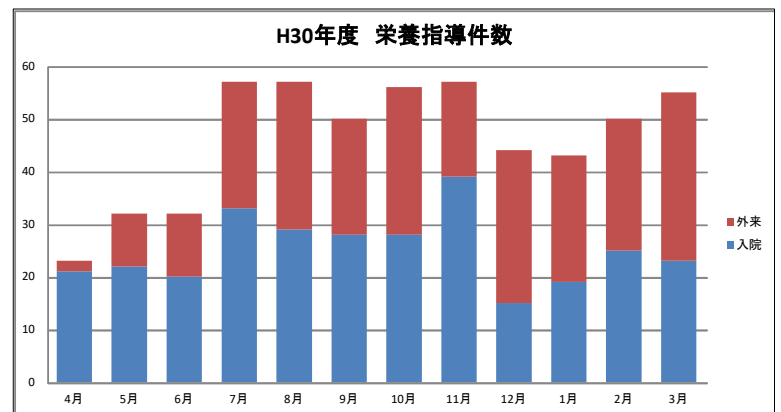
また、患者食事負担額が更に増額となり、満足度向上のため患者さまより伺ったお声やアンケート結果をもとに食品、調理法を検討し、随時献立への反映に取り組みました。

NSTにおいては、6月よりチーム加算の算定が開始となりました。毎週1回カンファレンスを開催、栄養評価を実施し、栄養改善目標の達成に向け活動を行いました。

### 【栄養指導延べ件数】

年間栄養指導件数 606 件  
(うち加算 556 件)

	件数
入院個別	316
外来個別	258
集団	32



### 【食事提供数】

年間提供食数 141,661 食  
(うち特別メニュー 674 食)

	食数	%
特別加算食	61,602	43.5
一般食	80,059	56.5

### 【NST延べ件数】

カンファレンス 47 回開催

	件数
低栄養リスク判定	71
栄養介入	178

### 【スタッフ】

栄養管理室長：川崎 修二(代謝内科医)  
管理栄養士：4名  
調理業務：九州フードサプライセンターへ委託

### 【今後の課題・展望】

経口摂取可能な患者さまが多くを占める当センターにおいて、摂食嚥下に対する栄養部門の関わりの重要性を感じています。「経口摂取を継続できるサポート」を目標にチーム活動にも貢献できるよう努めていきます。また、NSTでは「サルコペニア」の簡易診断導入に向け取り組んでいます。栄養スクリーニング指標の一つとして、あらゆる視点で栄養状態の評価が実践できればと考えています。

## 医療安全管理室

### 【平成 30 年度総括】

医療安全管理室は、ヒヤリハット・事故報告書の管理・運用、職員研修の企画・運営、安全情報の提供、医療事故防止マニュアルの周知徹底などが主な業務であり、各種委員会、医薬品・医療機器安全管理者等と連携して医療安全管理や推進活動を行ってきました。

平成 30 年度は特に、肺血栓塞栓症予防への取り組み、医療安全対策に関する他の医療機関との連携、医療事故防止マニュアルの改訂などを実施しました。

### 【スタッフ】

医療安全管理室長：別府 透（副院長兼職）  
 医薬品安全管理者：金森 浩明（副薬剤科長）  
 医療機器安全管理者：西口 博憲（主任臨床工学技士）  
 専従医療安全管理者：宮本 裕子（看護師長）

### 【年度別ヒヤリハット・事故報告の件数】（事故はレベル3a 以上）

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
ヒヤリハット	580 件	581 件	604 件
事故	51 件	61 件	39 件
総数	631 件	642 件	643 件

### 【平成 30 年度ヒヤリハット・事故報告の種類別件数】

種類	件数	種類	件数
薬剤	261 件	医療機器	13 件
転倒・転落	152 件	輸血	5 件
処置・検査	74 件	食事	40 件
チューブ類	37 件	患者対応	13 件
手術	14 件	その他	34 件

### 【今後の課題・展望】

- ①医療事故を防止し、医療の質の向上を図る
- ②医療事故防止マニュアルの改訂
- ③医療安全対策に関する他の医療機関との連携
- ④ヒヤリハット・事故報告の推進

医療安全管理室への迅速な事例報告は、医療に関する様々な問題を院内全体で取り組む事につながります。様々な事例の報告、相談に適切に対処できる専門的な知識、技能を備え、院内職員が安心して自信を持って働ける環境整備を行っていききたいと思います。



## 感 染 制 御 室

### 【平成 30 年度総括】

病院内における感染管理と感染対策のための主要な目的は、①患者さまを守ること、②医療環境で医療従事者と病院利用者(訪問者)、その他の人を守ること、③可能なときにはいつでも、可能な限り費用対効果の高い方法で、①と②の目的を達成することです。現代において、新興・再興感染症や多剤耐性菌が社会的にも問題となっています。様々な状態にある患者さまをはじめとする大勢の方が利用する病院内においては、感染の拡大が起これないよう対策・管理を行わなければなりません。そのため、病院長直下の諮問機関として院内感染対策委員会を組織し、その実動部隊として感染制御チームが感染対策の活動を行っています。

平成 29 年度より熊本県感染管理ネットワーク微生物サーベイランスと厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業の細菌検査部門・手術部位感染 (SSI) 部門に参加し、日常の感染症発生状況の把握し、アウトブレイクの早期発見に努めています。

#### 1. 感染管理システム

- ①院内感染対策委員会開催(12回/年開催)
- ②感染制御チームラウンド(病棟環境ラウンド:毎週実施)
- ③抗菌薬適正使用ラウンド(毎週実施)

#### 2. サーベイランス

- ①院内感染症情報収集・分析・対策

	平成 29 年度			平成 30 年度		
	合計	新規	発生密度率	合計	新規	発生密度率
MRSA	90	32	0.58	75	22	0.41
ESBL 産生菌	68	29	0.52	57	13	0.25
<i>C.difficile</i> toxin	11	6	0.11	15	8	0.15
<i>M.tuberculosis</i>	2	1	0.02	0	0	0.00
BLNAR	2	1	0.02	3	0	0.00

#### 3. 感染管理教育

- ① 院内研修

日時	対象	内容	参加数	講師
4月2日	新入職者	医療関連感染 標準予防策 職業感染対策 感染性廃棄物 感染経路別予防策	14	ICN
5月29日 6月5日	全職員	薬剤耐性(AMR)アクションプランと抗微生物薬 適正使用の手引き	139 (166)	ICD ICN
6月28日	希望者	WEB セミナー「急性期病院看護師が知っておきたい尿路感染対策のポイント」	17	山形大学医学部附属病院 森兼啓太先生

9月10日	希望者	WEB セミナー「腸内細菌科耐性菌対策のポイント」	4	山形大学医学部付属病院 森兼啓太先生
9月13日	希望者	WEB セミナー「価値ある地域連携を目指した地道な感染制御活動」	7	箕面市立病院 四宮聡先生
9月18日	希望者	WEB セミナー「カテーテル関連血流感染対策のポイント」	8	山形大学医学部付属病院 森兼啓太先生
11月8日	希望者	WEB セミナー「ICN からみた感染予防に役立つ製品選びのツボ」	4	兵庫医科大学病院 一木薫先生
11月20日	希望者	WEB セミナー(再配信)「価値ある地域連携を目指した地道な感染制御活動」	5	箕面市立病院 四宮聡先生
12月7日 12月13日	全職員	インフルエンザ対策 ～今年もあいつがやってくる～	170 (196)	ICN

② 外部研修

日時	対象	内容	講師
5月31日	小規模多機能型居宅介護事業所連絡協議会研修 山鹿市小規模多機能型居宅介護事業所職員	インフルエンザ感染対策 感染性胃腸炎感染対策(嘔吐・下痢編)	ICN
7月14日 10月13日 1月26日	日本感染管理ベストプラクティス”Saizen”研究会 医療施設で感染対策を担当されている職員	熊本ワーキンググループアドバイザー	ICN
7月30日	山鹿温泉リハビリテーション病院感染研修 山鹿温泉リハビリテーション病院全職員	標準予防策～Standard Precaution～	ICN
8月23日 8月30日	特定非営利活動法人コレクティブ研修会	食中毒と感染性胃腸炎	ICN
9月25日	鹿本圏域看護職員継続教育研修 鹿本圏域看護職員	院内感染対策について 院内ラウンド	ICN
11月15日	大道保育園保健衛生研修会 大道保育園職員	食中毒と感染性胃腸炎	ICN

③ ICT NEWS 発行

Vol.	内容	発行日
35	旅行先での感染症にご注意！	平成30年4月20日
36	麻疹(はしか)にご注意！	5月1日
37	5月5日は手指衛生の日	5月1日
38	2018年度 第1回院内感染対策研修会	7月23日
39	2018年度 第1回院内感染対策研修会 (フォローアップテスト解答付き)	7月23日
40	インスリンバイアル製剤開封後使用期限を改定しました！	12月3日
41	インフルエンザ流行中！	12月9日
42	院内感染対策研修会へご参加ありがとうございました	8月30日

4. 院内感染対策マニュアル・抗菌薬適正使用マニュアル改訂

院内感染対策マニュアル 2018 年版・抗菌薬適正使用マニュアル 2018 年版を院内共有フォルダに掲載

季節性インフルエンザ流行時期の面会制限開始・解除基準改定

5. 職業感染対策

①流行性ウイルス疾患抗体ワクチン接種者数

	平成 29 年度				平成 30 年度			
	麻疹	風疹	水痘	流行性耳下腺炎	麻疹	風疹	水痘	流行性耳下腺炎
抗体陰性者数(人)	100	79	7	86	23	13	4	19
ワクチン接種者数(人)	89	70	6	71	19	9	3	16
ワクチン接種率	89.0%	88.6%	85.7%	82.6%	82.6%	69.2%	75.0%	84.2%

②インフルエンザワクチン接種者数(外部委託職員含む):374名/400名(接種割合 93.5%)

③針刺し・切創/血液・体液曝露事象発生報告件数:8件(前年度 7 件)

6. 地域連携

①感染防止対策地域連携カンファレンス(1-2 連携)開催(8 回/年)

②感染防止対策地域連携に係る相互チェック実施

9 月 27 日受診:熊本大学医学部附属病院

10 月 4 日視察:公立玉名中央病院

【次年度の課題・展望】

・平成 30 年 1 月より厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業の手術部位感染 (SSI) 部門に参加している。

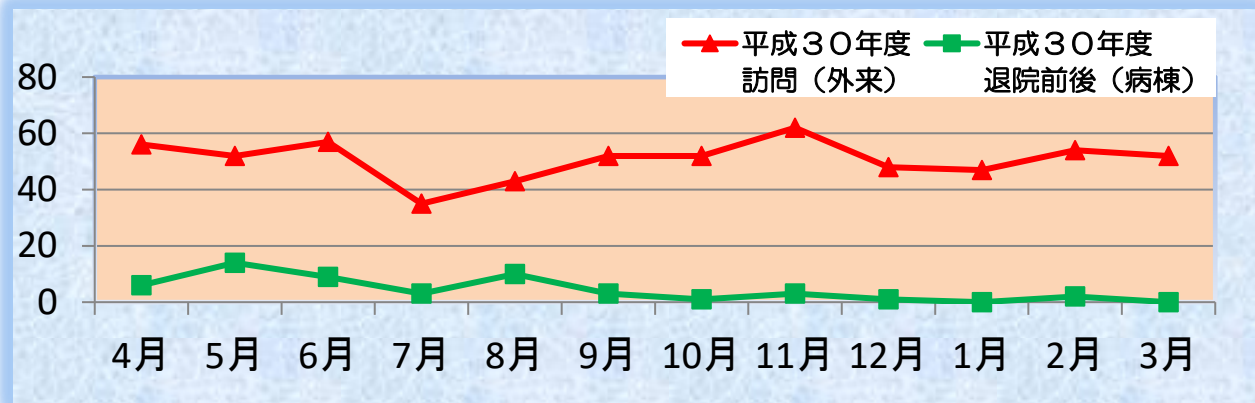
日常の手術部位感染の発生状況を把握し、アウトブレイクの早期発見に努める。また、手術部位感染予防に関するケアプロセスへの介入を行い、手術部位感染の減少に努め、それによる医療・ケアの質の改善を図る。

・抗菌薬適正使用支援プログラムを実施し、抗菌薬使用の適正化に努める。

・職員の流行性ウイルス疾患感受性職員・B 型肝炎ウイルス抗体未獲得職員へのワクチン接種実施し、院内感染拡大の防止と職業感染曝露防止に努める。

## 訪問看護室「菜の花」

## 【平成 30 年度訪問件数】



総件数:延べ 662 件

## 【平成 30 年度総括】

5月より産休明けのスタッフが加わり常勤3人体制でのスタートとなりましたが、時間短縮勤務等の関係で時間外、土、日、祝日の対応は難しく、限られた時間の中で看護の質を保証し在宅医療サービスを安全に提供する事を目標にし、新規受け入れを緩和ケア対象の方や退院前・後訪問指導を中心に訪問看護を行いました。また、救急外来や外来師長と連携し情報共有することで24時間対応を行う事が出来ました。

訪問実績は昨年と比較し662件(-24件)と大きく変化はありませんでした。退院前・後訪問指導は52件(+29件)と増加が見られました。退院前に住宅環境や介護力を評価し、退院後に自宅での移動動作や入浴動作の確認、医療処置や不安への支援を行うで安心・安全な在宅移行に繋がったと実感しています。その中でも、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟や退院調整部門との協力と連携で、昨年度と同様に私たちの看護理念(無理をしない、無理をさせない)に沿った在宅看護ができました。

## 【スタッフ】

訪問看護室長：坂田 典文(緩和ケア内科医)  
 訪問看護室管理者：佐藤 明美(副看護師長)  
 訪問看護師：渡邊 加寿子  
 早田 富士子

## 【今後の課題・展望】

## ・人材育成

訪問看護室は慢性的なマンパワー不足の状況にあるため、学習会や退院支援カンファレンスを通し、若いスタッフにも在宅医療に興味を持ってもらえるような働きかけを行い、新人スタッフにも無理をせず仕事を続けられる職場環境作りと支援を行って行きたいと考えている。また、退院前・後訪問指導や特別訪問看護指示書による訪問看護の件数を増やすことで、在宅復帰率の向上や在院日数短縮、病床稼働率などへの関わりにより経営参画に繋げたい。

## 地 域 健 診 室

### 【平成 30 年度総括】

平成 30 年度の健康診断及び人間ドックの総数は 3,739 件で、昨年度から 32 件増加しました。主な健診内容別では、全国健康保険協会(協会けんぽ)生活習慣病予防健診 1,600 件(昨年比+78 件)、各種人間ドック 155 件(昨年比+6 件)、乳がん検診は 435 件(昨年比-61 件)を実施しました。

健診を受ける事業所数は毎年増加しており、新規の利用も増えています。また、乳がん検診に関する問い合わせは増加傾向で、市町村が実施する集団検診への受検案内や乳腺外来への受診も勧めています。山鹿市乳がん検診の個別実施機関は当センターのみで、受け入れ人数には限りがあることから、今年度は集団検診の終了以降より個別検診を開始し、集団検診での受検者増加を図りました。そのため、当センターでの実施件数は昨年度より減少しております。

健診の種類は、協会けんぽ生活習慣病予防健診、山鹿市・和水町国保人間ドック、市町村共済人間ドック、一般人間ドック、法定健診、各種特定健診、山鹿市特定二次検査、後期高齢者健診、被爆者・被爆者二世健診、乳がん検診(山鹿市・和水町)、山鹿市肝炎ウイルス検査及び大腸がん検診、山鹿市役所・消防本部職員健診、病院職員健診等です。また、産婦人科外来が委託を受けている山鹿市・和水町子宮頸がん検診の予約業務も行っています。

今年度より病院職員と同様に、山鹿市職員の定期健診においても、がん検診等のオプション検査を受けることができるように体制を整備し、120 件以上の申込みを受けました。職域健診におけるオプション検査の導入は、職員が自身の健康に目を向ける機会の提供となり、疾患の早期発見の一助になると思っております。

健診の対応は、診察・結果説明を豊永先生が行い、心電図の読影・被爆者健診は永野室長が担当しました。内視鏡検査は豊永先生を中心に本原先生、柚留木先生に、胸写の読影は幸先生、SAS の判定は坂田和子先生、負荷心電図の判定は大庭先生、眼底検査等の判定は草野先生、山鹿市特定二次検査は川崎先生にご協力をいただきました。

保健師による特定保健指導は、初回の面談で生活習慣改善のための行動変容を動機づけ、半年間の健康支援を電話・手紙等で行っています。今年度は 194 名(昨年比+68 件)の対象者を支援し、様々な方面からメタボリックシンドロームの改善にアプローチしました。その関わりについては、第 49 回日本看護学会ーヘルスプロモーションー学術集会において、「特定保健指導における初回面接の効果ー対象者の生活習慣改善に対する態度を把握してー」と題して、口演発表しました。熊本県肝疾患コーディネーターの活動では、肝炎サロン(主催:熊本県)の参加をはじめ、日々の職域健診と併せてウイルス検査の受検を勧奨し、例年 30 名程の受検を実施しています。また、肝炎ウイルス治療後やキャリアの方に定期検査の重要性を説明し、外来部門のコーディネーターと連携して消化器内科への受診に繋げています。

**【スタッフ】**

病院事業管理者：豊永 政和

地域健診室長：永野 久俊(診療部内科長兼務)

保 健 師：鹿子木 光葉、原 沙織

事 務：平野 明子(非常勤)、田川 友紀(委託)

**【今後の課題・展望】**

平成 31 年度は他部署との連携をさらに強化して、受検者の要望に沿ったサービスの向上を計画しています。また、特定保健指導を受けた人は受けなかった人に比べ、全ての年齢階級で医療費が抑えられたと報告されていることから、実施率の更なる向上を目指し、疾患の発症や重症化を予防する視点で受検者の健康づくりに貢献していきたいと思っております。